

| No. | 意見 | 備考 |
|-----|---|------------|
| 1 | <p>日本中の市町村が抱えているが、低い出生率と高齢化による人口減少がある。目標人口が、77,000人となっている。妥当なところではないかなというふうと思うが、挑戦的な目標ではない。今後テレワークの導入、分散型・ネットワーク型社会への転換、デジタル化による働き方改革など社会構造の変化があると考えられる。また、旅館でのワーケーションやサテライトオフィスの整備による都市から地方への移住促進というのが進むことが予想される。</p> <p>市民意識調査の住みやすさで30年度では37%の人は、住みやすい、10年前は33%と増えている。中学生アンケートでは44.9%の中学生が住みやすいと回答し、市民の高校生は35.6%。しかし、市内の高校通う市外に住む学生は、あまり住みやすいところではないというイメージを持っている。このようなところにも着目しながら総合計画を作っていく必要がある。市長のマニフェストの中にある「子供ファースト」を軸に置いた保育の完全無償化、給食費の無償化、小中一貫教育など施策の展開を行ってはどうか。</p> <p>蒲郡は民間からの投資が少ないと感じる。ラグーナにおいてはラグーナバイコートができたが、蒲郡駅前北口の開発や東港の開発等々について民間を利用して作っていただきたい。</p> | 2020/10/13 |
| 2 | <p>人口減少に歯止めをかけると様々な政策を行っている。人口減少に歯止めをかけるにはにぎわいのあるまちづくりが最終的な目標ではないかと思う。それには定住と移住に力を注ぐ必要がある。現在、働き方が大きく様変わりしている。大都市に一極集中するのではなく、地方への移住が少しずつ進みつつある。蒲郡が選ばれる地域になる必要があり、そのためには様々な要素が必要である。まず安全で安心な地域である必要がある。医療や介護、社会福祉、社会保障、防災減災の充実、中心市街地の活性化が必要である。そして、中心市街地への交通の利便、それに伴う道路・インフラ整備、港湾の整備など様々な整備が必要である。さらに市街化区域の拡大。大変ハードルの高い、用途変更だが、市街化区域の拡充拡大によって、地域にですね定住者が増えるよう、政策を行っていただきたい。</p> <p>そして子育て環境、学校教育の環境の充実、蒲郡の良いところである海山川などの自然環境の保全、循環型社会の形成など子育てに良い環境をしっかりと保全して行って欲しい。これらが定住移住の重要なファクターであると思う。</p> <p>そして、定住移住は、地元の産業があつてのことであるため、既存の産業である農業、水産業、観光業、商業、工業、新規の企業が参入ができるような支援が今後必要になってくる。</p> <p>高齢化の方に対する対策、福祉の充実、生涯スポーツの振興のようなものが、今後、発展していくためには重要である。農業振興の面では農地の利活用がなかなか進んでいない。農地から用途変更による再利用を求める声が多に多い。多くの制限があるが、農業従事者に対する支援策と併せ、農地の用途変更による再利用をしっかりと政策を行っていただきたい。また、外部団体の活用も今後、進めていきたい。</p> | 2020/10/13 |
| 3 | <p>コロナにより、経済効率至上主義が進められており、福祉や教育などに対する予算的体制が薄く、弱者へのしわ寄せとなっている。10年後の蒲郡が市民が幸せに暮らせることを目指していただきたい。</p> <p>一つ目には、福祉と教育。介護は非常に経済問題が大きいため、在宅、施設問わず、精神的にも経済的にも安心して介護が受けられるまちを目指す。障がい者の方は、障害によって学びや仕事、暮らしがに支障があることなく暮らしていけること。子供たちには、コロナや、きめ細かい教育のため、20人学級を実現していただきたい。保育園や学校の給食は自園、自校調理とし、災害時の炊き出しにも対応したい。</p> <p>二つ目には公共交通。巡回バスを、車椅子でも乗れるタイプで、市内すべて徒歩5分以内にバス停があり、毎日少なくとも1時間に1本はあるようにすること。そうでなければ免許返納はできない。</p> <p>三つ目は、公共施設と特に市民プール。小学校区単位で、市役所の支所とその地域の課題を解決するようなものを作り、高齢者、障がい者、子供それぞれの居場所も小学校区単位であること。そして、学校の体育館はすべてエアコンを設置して避難所を確保すること。</p> <p>四つ目には、地域経済。市内での取引の少ない企業誘致に頼らず、地域経済循環率の高い小規模事業者を手厚くし、地域の担い手、そして消防団員の確保にもつなげたい。リフォーム助成制度は非常に有効である。</p> <p>五つ目には、空き家、空き店舗対策を充実し、若者や人口増につなげたい。空き家を借りる人への家賃補助、リフォームする人への補助、そして空き家を買う世帯へ特に大きな支援を行うことで、人口が増えているという事例はある。危険な空き家については、市が取得をして取り壊し、市民菜園として貸し出して、災害時のミニ広場としても活用できるようにしたい。</p> <p>六つ目は、環境の問題である。CO₂をゼロに。またごみの排出の削減、リサイクルを推進で、三河湾のプラごみ、マイクロプラスチックのごみも無くしていきたい。</p> <p>七つ目には、Society5.0やAI、ロボティクスなどいろいろ書いてあるが、こういうものに浮き足立たないでいただきたい。市民の暮らしを幸せにするという趣旨の本来のところを忘れずに、技術活用で、職員の事務的な負担を減らすことで、より市民に寄り添った、きめ細かい支援を目指していただきたい。それにより職員の残業を大幅に減らすことで、まず職員が家族と一緒に過ごし、地域の活動に従事できるような、充実した生活を送ることのできる市を目指していただきたい。</p> | 2020/10/13 |
| 4 | <p>インフラ整備について、大塚金野線を要望を行っていると思うが、473号の整備も重要である。第2東名の岡崎東インターに結ぶ473号と大塚金野線の両方要望していくべきである。10年後を十分見据え、解消できるようにやっていただきたい。防災面においても蒲郡港がある。第2東名については、山側にあり、非常に災害に強い高速道路である。そして海に一番近いインターチェンジが岡崎にあるため、そこを結ぶ473号は非常に重要な道路である。岡崎にアウトレットモールができるという話もあるため、ぜひとも強く進めていただきたい。</p> <p>農業については基盤整備が重要である。若手の農業者の方から話を聞くと、作付け面積を広げ儲かる農業をしたいんだという意見もある。耕作放棄地等増えているため、土地の活用がされていないので、基盤整備事業を進めていただきたい。</p> <p>シティセールスについては、今までやってきているためそれをさらに推し進めロケの聖地として観光客が訪れていただけるまちになることを望んでいる。</p> <p>漁業については、アサリが非常に厳しい状況であるということを知っている。栽培漁業等を含め海の栄養のことも思うが、将来見据えアサリが取れるようにしていただきたいと思う。</p> | 2020/10/13 |
| 5 | <p>知る限りでは下水道本管の耐震化がなされていないと思う。蒲郡市は地盤が悪い、東西方向とも大本管が埋め立てを通過しており、浮き上がり心配されている。また震災後のときだけではなく、本管が地下水面以下にあるところもある、常に水に浸かっている状態のため、その劣化が心配される。</p> <p>下水道が使えなくなると、住宅がつかなくなるほか商店や工場も、一切使えなくなる。下水道の耐震化や、その本管の更新が必要であることが本市にとって最も大切なインフラ整備であると思っている。</p> | 2020/10/13 |

| No. | 意見 | 備考 |
|-----|--|------------|
| 6 | <p>道路河川、上下水、海といった基盤整備が10年たって終わってるのかという、やらなければいけないところや途中のところがあると思う。計画的に10年先にどうなるかを考えていただきたい。</p> <p>改修している体育館を視察に行ったが、落合川がすぐ横にある。地下貯留などをつくれれば、良いものができた。貯留は目立たないが非常にいいことが多い。スポーツ推進課だけではそこまで思いつかない。担当課だけではなく、様々な部署が関わり、他にやるものはないかという視点で見ると必要があるのではないかと。今何が重要なことかを計画されているのであれば広く見ていただきたい。</p> <p>豊岡大塚線を開通して欲しい。都市計画道路の線を引いてから時間が経ち世代が変わり、経緯などがわからなくなっている。開通までのシナリオを作ってください、どの段階でどのようになったらどうするかを計画の中で残していただきたい。</p> | 2020/10/13 |
| 7 | <p>都市間競争が活発化されていく中で、蒲郡が何を売り出したいのかを関係各所としっかり協力して明確にした上で、かつ市民の方を巻き込んでまちぐるみで、取り組んでいくことを考えていただきたい。</p> <p>蒲郡市、観光協会、商工会議所、まちづくり団体が方向性がバラバラで行ってしまうと力が分散してしまう。何をやってきたのかよくわからないという話を色々な方から聞く。蒲郡として売り出したいのは子供なのか観光、健康、スポーツ、景観、海と山なのかと色々ある。「〇〇のまちがまごおり」という表記は、色々なところで見ると、多くありすぎて結局何を売り出したいのかわからない。他を全部ゼロするわけではないが、一つに絞ったほうがよい。人それぞれ考え方が違うが、指針が何か一つあるとやり方が変わってくる。例えば健康とか医療に力を入れていくという話であれば、観光にヘルスツーリズムとか医療ツーリズムの話になってくるかもしれない。まちづくりでもそのような視点を取り入れた色々な活動が出てくる。その部分がまだまだ弱いと感じた。蒲郡はこういったもので、市内外に発信をしていくというものを定めるべきである。市外の人にはこういったことをPRしてがまごおりに来てもらう、蒲郡に住んでもらう、市民にとってはこういったことを全体でやっていこうという指標にさせていただいて、それに向けて市民みんなでまちぐるみで取り組んでいく視点を市としても作っていただきたい。</p> <p>これからの時代、新たな担い手をしっかり育成していただき、行政民間一体となってまちづくりに取り組んでいただきたい。行政だけでやる時代でなくなってきている。民間や市民側にも、市がやってくれという意識を変えなければいけない。若い世代、女性、外国人、関係人口という話であれば観光客も担い手になるかもしれないが、まちづくりという部分で新たな担い手を生み出しながら、そこに行政がタッグを組んで、民間と行政が一体となったまちづくりに取り組んでいただきたい。</p> <p>10年後のイメージをしっかり持った上でいろいろな施策展開をしていただきたい。デジタル化が当たり前の時代になっていく中で、政府では、教科書もデジタル化される話もある。感覚が変わっていく中で、感覚が違う人が10年後、一気に社会人になったときに、大きく変わっていくと思うので、しっかり意識をしていただきたい。</p> <p>10年間でなくなる仕事や新たに生まれる仕事も出てくる。そういった視点で各施策一つ一つにおいても10年後どうなっているかというところをもう少し練っていただきたい。</p> | 2020/10/13 |